

第1回 高等学校教育改革推進協議会 会議要旨

- | | |
|--------|-------------------------|
| 1 実施日時 | 平成24年5月25日（金） 午後3時～午後5時 |
| 2 実施場所 | 千葉市美術館講堂 |

1 報告

(1) 県立学校改革推進プラン・第1次実施プログラムについて

- ・ 県立高校の現状と課題，基本的コンセプト，改革の方向性，魅力ある高校づくりの具体計画，及び適正規模・適正配置について説明。
- ・ 前期（平成24～28年度）に実施する改革のうち，校名を含めた検討を終えた具体計画について説明。



(2) 広報に係る資料について

- ・ 新聞記事やリーフレットの表紙に取り上げられた地域連携アクティブスクールの具体事例を紹介。

2 協議

(1) 入学者選抜について

《協議内容》

新しく導入した選抜は，地域連携アクティブスクールの理念を踏まえた内容かどうか，次年度に向けた改善点の有無についてという視点で協議を行った。

ア) 泉高校

- ・ 作文について，事前準備に努めた受検生には，取り組み易い内容であった。
- ・ 面接について，職員3人対受検生1人の体制で，意欲等を丁寧にみることができたが，受検番号が早い遅いにより，終了時間が大きくずれこむことが気がりであり，時間配分に工夫が必要。
- ・ 二期選抜の学校独自問題はおおむね想定どおりの通過率であり，受検生の多くが手応えを感じ，達成感や成就感を得た検査になった。
- ・ 指定の願書以外の願書を持参した受検生がいた。

イ) 天羽高校

- ・学力検査 300 点満点に対し、面接、作文、自己表現で合計 400 点満点とし、人間性や意欲をより重視して実施した。
- ・口頭試問は受検生の学力を短時間に丁寧にみることが可能であり、好評であった。
- ・自己表現など個々の検査の実施方法について再検討が必要な面もある。

《主な意見等》

- ・本市では、中学生の 4 割が市内に 2 校ある県立高校のいずれかに進学しており、学力検査を 3 教科とする独自の選抜の導入は、少なからず波紋を呼ぶこととなった。学校と市教育委員会はしっかり学習に取り組ませたいと考えているが、勉強しなくなるのではないかと危惧している。
入試の在り方が毎年毎年変わることがあってはならないが、独自の入学者選抜で入学した子どもたちの今後の様子や、生徒を送り出す中学校の様子を把握しながら、しかるべきときが来たら選抜について検討していただきたい。また、中学校や委員会内の意見等も報告したい。
- ・意欲を重視する独自の入学者選抜の導入は、大変良いことである。就職試験の面接で多数の高校生を見てきたが、3 年間運動部で活動した生徒はしつけやマナーが身に付いており、学習成績が少々悪くても、入社してから十分対応できた。選抜方法を修正すると言うが、どのような修正を行うのか。
 - 選抜の根幹を変えるものではない。自己表現の検査のうち、種目の選択者数にばらつきがあったので、検査に当たる職員の負担感を公平にしようとするものである。選抜制度そのものへの異論があるわけではない。
- ・入学後、部活動を 3 年間継続して行う強い意志・意欲があれば、選抜の判定でプラスの評価をしてはどうか。また、部活動を単位として認定することを考えてはどうか。アクティブスクールの特色となると考える。
- ・選抜を終えて、学力検査と面接・作文・自己表現の配点の比率に対し、どのような意見があったか。
 - 特に変更を求める意見はなかったが、引き続き入試検討委員会等で検討を重ねる。
 - 学力検査とそれ以外の検査が同等となるよう比率を定めた。
- ・面接において、最初の生徒と最後の生徒の終了時間に差があるというのは、面接する時間の長さに差が生じたということか。
 - 受検番号が早い生徒はあまり待つことなく面接を受けることができたが、遅い生徒は控え室で 2 時間半程度待つことになった。生徒がリラックスできる環境を整えたが、待つ時間が長かったことは否めない。
- ・選抜においては受検生の公平性を担保する必要があるが、どのように改善するのか。
 - 地域連携アクティブスクールに限らず、個人面接を実施している学校は同様の

課題を抱えている。

- 面接に当たる職員を3人から2人に減らせば待機時間を短縮できるが、評価するには偶数より奇数の方が好ましいため、ほとんどの職員が面接業務を担当して3人一組で面接を行った。受検生のいる中学校には、事前に待ち時間が長くなる旨を文書で連絡した。次年度も同様に考えている。
- ・ 選抜・評価方法のうち、出欠の記録をどのように扱ったのか。
 - 欠席が多いことでマイナスの評価をしないという意味で、「慎重に審議する」と表現している。
 - 資料のとおり、皆勤を考慮し10点満点で評価したが、皆勤者の数は多くはない。
- ・ 選抜・評価方法は公表されているのか。
 - 透明性を高めるために、各学校が公表している。
- ・ 不登校の生徒は、欠席が多いと不利になるのではないかと気にしている。表記を統一する必要はないが、解釈が分かれるような表記は避けた方がよい。
- ・ 独自の選抜を導入したことで、学校現場には様々な苦労があるのではないか。
 - 独自問題の作成等、職員には感謝している。
 - 自己表現の検査は必要な職員の数が多く、本部の要員が不足してしまう。この状況をなんとか改善したいという声があるが、選抜方法をマイナスに捉えた批判的な意見ではない。
- ・ 実務的な課題はあるものの、選抜についてはおおむね評価できる内容である。

(2) 学び直しの充実について

《協議内容》

効果の検証を含めた関係各校の報告を元に、作業部会の設置等、充実に向けた方策について協議を行った。

ア) 泉高校

- ・ 「ベーシック」に関するアンケート調査によれば「学習内容が身に付いた」「授業を受けて良かった」と回答した生徒が90%を超えた。
- ・ 「ベーシック」開始時と学年末終了直前に同じ問題で考査を行うと、15～20%ほど数値の上昇が見られた。
- ・ 学習サポートボランティアを依頼している大学の教育実習生を受け入れることとなった。

イ) 天羽高校

- ・今年度から、大学生のボランティアが入るようになり、「ステップアップ」は教員3名、ボランティアの大学生2名の計5人体制で指導に当たっている。
- ・昨年度実施した効果測定の結果、着実に効果が定着していると評価できる。
- ・アンケート結果を見ると、学び直しが「将来自分の役に立つ」と肯定的な回答をした生徒が半数弱にとどまった。アンケート項目の見直しや実施の詳細について、さらなる検討が必要である。

ウ) 浦安南高校

- ・「基礎習得」の内容を精査し、生徒の実態に応じた内容とする。
- ・外部講師として大学生の活用を検討しているが、今のところ難しい。
- ・地域の小・中学校と授業交流を通して連携を深める。

エ) 流山北高校

- ・基礎から学ぶ授業は好評で、授業がわかりやすいと答えた生徒の割合が増加している。
- ・国数英で基礎的な繰り返し練習を継続して実施し、達成感や取組態度の向上が見られる。
- ・今年度入学生から学力診断テスト「Vステップ」を導入し、次年度以降対象を拡大する。

《主な意見等》

- ・実践している教科はおおむね共通しているが、教育課程上の位置づけ、実施時間帯、アンケートの実施、学び直しの前後の効果検証テストの実施、大学生の学習ボランティアの活用等については、各校で取組がまちまちである。共通する項目と他と異なる項目を整理し一覧にすると、協議会でも作業部会でも、議論がしやすい。
- ・学び直しは、四則演算や漢字の書き取りなど単純作業の繰り返しが多く、飽きてしまう面もある。なぜ学び直しを行うのか、将来何の役に立つのか等の動機付けを確実に行う必要がある。機械的に作業をこなすだけでは難しい。
- ・小学校レベルの内容から学び直しに取り組む一方で、学習指導要領に則した高校の学びも履修する、その差をどのようにして埋めているのか。
 - 動機付けとして、学び直しは高校入学後の学習に的確に対応できるようにするため実施している旨を常々話している。

また、授業において、「ベーシック」に近いレベルの内容から導入し、教科書の内容につなげていく等の工夫を、国数英はもとより学び直しでは扱わない内容でも行っている。
 - 数学・英語を苦手としている生徒が多いため、小学校レベルの学び直しに取り組む他、1年生で履修する数学、英語の単位数を1単位増加して指導している。

また、生徒の反応を見ながら授業進度を調節したり、網羅的に扱うのではなく

重点を絞って指導している。

→ クイズ形式を導入するなど発問方法を工夫し、生徒が内容に興味関心を示すようにしている。

また、自信がない生徒が多い、生徒同士が教え合う機会を設けている。

→ 百マス計算のような繰り返し練習は、集中力を高めるのに効果がある。いきなり授業を初めても、はじめの 10 分くらいは集中させることが難しい。単純な内容の小テストであっても評価につながる取組を取り入れることで、小中学校で経験できなかった高得点をあげて喜びや達成感を感じている生徒もいる。

- 学び直しに取り組み、「高校で勉強ができて良かった」と感じている生徒はいるのか。
→ 「ベーシック」を導入して3年目になるが、生徒アンケートでは、9割の生徒が「授業を受けて良かった」と回答しており、手応えを感じている。
- 基礎学力の定着について検証するなら、県教委が中学校で学ぶ内容を盛り込んだテキストを作成しており、活用することも可能である。「できるようになって欲しい」、「できるようにしたい」という教員の願いは理解できるが、多くの成就感を感じることなく高校に入学した子ども達にとって、「今日はできた」、「先生に教えてもらってうれしかった」等、一日のなかで喜びを実感できる時間があることが大事である。
- 「取組内容が単純だと飽きてしまう」、「集中力が続かないこともある」のは、小・中学校でも同じである。9割の生徒が肯定感を感じている泉高校の成果は、もちろん先生方の努力によるものだろうが、どのような動機付けをして臨んだらよいかという問いに対するヒントがあると思う。
- 学び直しの効果検証は、4月当初に比べて年度末に学力が身に付いたことを点数ではかるのも大事だが、各校の現状を考えると、小中学校で身に付け損なった学習態度が身に付くことが本筋ではないか。集中力、達成感などを検証するには、数値ではなく、「今まで立ち歩いていた生徒が、全員が前を向いて授業を受けている」などのエピソード記述のほうが、如実に効果を表すのではないか。
- 中学時代に欠席が多かった生徒が高校に入学したら解消することもある。客観的な手法として、学力以外の観点にも着目して効果検証をして欲しい。
- 学び直しに取り組むに当たり、具体的な到達目標をどのように設定しているのか。効果検証をするには、設定した目標に対する成果と手立てという視点で検証が必要となる。学校全体で設定している場合もあると思うが、生徒の実態も多様であり個々に対応しているケースもあるのではないか。場合によっては、教科ごとに設定の方法が異なることもあると思う。

→ 評価方法は細かく定めている。提出物の状況を含め学習に取り組む態度を最も重視している。

秋口になると内容が難しくなることもあり、つまづいてしまう生徒がいることは事実である。

→ 国語は漢字検定を念頭に置いており、意欲がある生徒には、3級取得を目標としている。数学については、中学1年レベルを目安にし、英語は業者が作成した教材を使用している。

毎時間、自己採点を行い、出席を重視して評価をしている。

→ 数学は分数の計算、国語は新聞の購読、英語はアルファベットの確実な標記を目安としている。ただし、実施に当たっては課題に取り組む姿勢を重視すると共に、興味関心を持たせる工夫をしている。

→ 数学については、生きていく上で最低限必要な基礎的な計算ができることを目標としている。基礎計算ができないため就職試験を突破できないことがないようにしたい。国語は漢字検定を目標としており、社会生活を送る上での最低限の漢字を習得させたい。英語は、文章を音読できるレベルを目指している。

- ・ 県教育委員会では、中学校で学ぶ内容を段階ごとに到達度をはかることが可能な「ちばのやる気学習ガイド」を作成した。昨年中学2年生まで配布し、今年3年生にも配布予定である。効果測定のための具体的な手法は今後検討することになるが、可能な範囲で協力したい。
- ・ 学び直しの充実については、今後作業部会を設けてさらに検討することとする。
- ・ 4校の実態からすると、学び直しの到達点は低いと言わざるを得ない。一方で、各校は学習指導要領、それぞれが定めた教育課程に則り、教科書を使用して授業を行う必要があり、教科書をどのように使用するか疑問が生じる。長いスパンで見ると、教科書の使用も含め、高校の授業をどうするかという議論にも踏み込まざるを得ないと考えている。そこまで作業部会にまかせることはできないが、このような議論ができることの意味は大きい。
- ・ 作業部会を設け統一的な基準を作ることはよいが、学校独自の取組があっても良い。

(3) キャリア教育の取組について

《協議内容》

関係各校が継続している取組、新たに始めた取組等についての報告を元に、内容を深め工夫改善を図る視点で協議を行った。

ア) 泉高校

- ・ 「産業社会と人間」を平成25年度から導入するための準備に、鋭意取り組んでいる。学校外の教育力を大いに活用し、地域連携アクティブスクールならではの「産業社会と人間」をつくりあげたい。
- ・ 今年から、地域若者サポートステーションからキャリアコンサルタントを毎週1回派遣いただいている。また、ジョブカフェに加え、NPO法人企業教育研究会

(ACE)、千葉市生涯学習センター等とも連携するなど、今まで以上につながりを密接にし、「産業社会と人間」の実施に関わっていただく予定である。

- ・キャリア教育支援コーディネーターの調整もあり、今年度から授業の中でインターンシップを実施する。6月には、ショッピングセンター・病院・介護施設・ホテル・ゴルフ場・バス会社等に約50名が参加する。

イ) 天羽高校

- ・キャリア教育支援コーディネーターの調整で、地元を大事にする視点で、区長会・商工会・経済団体等に協力いただいている。
- ・1年生でNPO法人風と緑の里の協力を得て農業体験を行う。また、地域農家から農地の無償提供を受け、芋・豆等を栽培し即売会を開く予定である。
- ・学校図書館や合宿所を地域に開放予定。

ウ) 浦安南高校

- ・全員が進級・卒業できる学校を目指し、新入生の出身中学校をすべて(65校)訪問し高校最初の中間考査前に、旧担任や学年主任から激励の電話を入れていただくよう依頼した。
- ・1学期末考査後に実施するインターンシップに、多くの生徒が参加できるよう体制づくりを進めている。

エ) 流山北高校

- ・キャリア教育の一環として、「道徳」を先行実施している。職員を中学校に派遣して「道徳」を参観させ、フィードバックしている。
- ・地域貢献を標榜しているところだが、夏季休業中に集中する地域行事等へボランティア参加が増えており、更に拡大したい。

《主な意見等》

- ・インターンシップに全員が参加する場合、受け入れ企業等で問題は起きないのか。
→ 8割以上の生徒が実施に前向きに取り組んでいるが、なかには、「もっと意識を高めて来て欲しい」、「あいさつができない」等の指摘を受ける生徒もいる。

3日間という限られた期間で、中学校で実施するインターンシップと差別化を図っていくのは難しい。事前指導をしっかりと行っているが、生徒指導上課題のある生徒もおり、場合によっては、学校技能員の指導のもと、校内で取り組むインターンシップもおり混ぜながら実施している。

的確に評価していただけなかったり、受け入れ企業の開拓が難しいなど課題はあるが、地元自治会等とのつながりができてくると、受け入れがスムーズになっていく。

- ・高校中退率が2.1%から1.7%に下がったことが注目を浴びているが、実感としては増えているように感じている。この数値が、高校の実態を表していないことは、高校

関係者には周知のことである。東京都は「都立高校改革推進計画」のなかで、卒業率を明らかにしており、珍しい取組である。高校入学者に対する3年後の卒業生数のデータがあるのだから、今後は、オープンにすることで高校の実態を明らかにする方向に変わっていくのではないかと考えている。あらためて各校に調査せずとも、問題行動調査等の緻密なデータがあり、公表すれば済むことである。教育情報の公開は進んでいることもあり、是非検討いただき、本会議等でも示していただきたい。

→ 高校卒業生の総数については、教育便覧のなかで明らかにしている。退学者数には、転編入学した数が含まれておらず実態が見えにくい面はあるが、提示できるデータの一例である。他のデータについても検討したい。

- 卒業生の総数はどの教育委員会でも公表しているが、東京都は、退学者だけでなく転編入学者数も加味している。入学者に対して卒業できなかった生徒は約1割であり、そのうちの半数が他校に転編入学した者である。こうしたデータは、東京都だけでなく大阪府でも公表している。学校ごとに公表するのは抵抗があるかもしれないが、実態が明らかになることから検討して欲しい。
- キャリア教育の中核となるのは「産業社会と人間」であると思う。一方で、「道徳」が必修化されその指導方法の工夫が求められるが、ソーシャルスキルトレーニングを実施するのも一つの方法である。「総合的な学習の時間」を含め、どの時間を活用してキャリア教育に取り組むかという視点での情報交換をお願いしたい。
- 起業家プログラムの内容について、改めて伺いたい。
 - 「起業家教育プログラム」は大学の教員が開発したもので、「総合的な学習の時間」を活用して、小中学校を中心に実施されてきた。本校では11年前から導入し、商品開発、製造、販売までの一連の流れを実体験することができる内容となっている。生徒は自分達で開発、製造した商品を、マザー牧場の敷地を借用し、来月、実際に販売することとなっている。
- 3年前に始まった本会議で提案してきたことが、着実に実行されていると感じる。現時点では学習サポートボランティアを活用していない学校も、地元の大学との連携を視野に入れていると思うが、実現に向けこの会議でも協力したいと思う。教育実習について、今後、大きな見直しが迫られるのではないかと考えている。文部科学省は、大学生が自分が卒業した母校で教育実習を行うことを問題視しているが、実態はそうなおらず、特に高校の場合は、ほとんど出身校に行っている。しかし、今後は安易に認められなくなり、実習以前にボランティアとして入ったことのある学校で実習する形がよりよい方向性と考えられる。大学側にも連携の気運が高まっているので、検討していただき、実現に向けた御意見もいただきたい。

《その他の意見等》

- ・ 多様な学科の設置や，少人数教育の時流にあっていると思うが，予算の問題もある。教員にとってやりがいのある環境づくりも必要である。
- ・ 中学校へのPRは重要である。

